

2025 年度 出題の意図

科目名：世界史

「世界史」は、高等学校「歴史総合」ならびに「世界史探究」の履修範囲より出題する、大問 4 題から構成される。各大問の設問数はそれぞれ 5~20 問の範囲で設定されるが、問題全体の設問数は 50 問である。配点は、各設問が 2 点、問題全体では 100 点となる。

出題の基本方針は、基礎的・基本的な学習内容となる政治・経済・文化・社会・宗教などの歴史的事象に関する正確な理解に基づき、「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を活かした考察を通して、高等学校での学習成果を確認できるものとしている。時代的には、古代・中世・近代、現代の各時代をバランスよく取り上げるよう留意するとともに、現代的な諸課題の形成過程に関わる歴史的事象を扱う場合などは各時代を縦断した関連性も問う。地域的には、ヨーロッパ、アメリカ（ラテンアメリカを含む）、アジア（日本を含む）、アフリカ、オセアニアといった諸地域世界の形成に関わる歴史的展開や、各地域で見られた特色ある歴史的事象を取り上げるだけでなく、世界の一体化の進展によるグローバル化の視点から地域間の相互交流の様子も問う。

出題形式は、はじめに各大問の主題を示した指示文、これに続き主題を踏まえた歴史的事象に関する問題文、そして各設問を配する。問題文は、取り上げた歴史的事象を説明する論述のほか、論述内容に関する地理的条件（地図を含む）、時系列に基づく事象間の展開や相互関連（年表含む）、論拠となる史資料や引用文（図像含む）からなる。設問は主に、問題文中に設けた空欄を補充する問いと、下線が記された内容に関連した事項についての問い合わせとなる。

解答形式は、いずれの設問も記述式であり、歴史的事象を説明するために用いられる年号や人名、歴史的事象の名称、それらが生じた国名や地域名といった語句や、設問に用意された選択肢を選び記号で記入するものがある。